

お金と幸福の関係

名古屋学院大学
経済学部 経済学科

山岡音太 山岸相太
北野伯 大竹航輝

研究背景

■日本はGDPは世界有数である一方、国際幸福度ランキングでは上位に位置していないことから、幸福度の関係を研究した

順位	国名	GDP (10億US\$)
1位	アメリカ合衆国	30,507.22
2位	中国	19,231.71
3位	ドイツ	4,744.804
4位	インド	4,187.017
5位	日本	4,186.431
6位	イギリス	3,839.180
7位	フランス	3,211.292

52位	オマーン	6.197
53位	ウズベキスタン	6.193
54位	パラグアイ	6.172
55位	日本	6.147
56位	ボスニアヘルツェゴビナ	6.136
57位	フィリピン	6.107
58位	大韓民国	6.038

研究目的

幸福度にはどのような影響があるのか
収入、身の回りの影響などの要因と比較する

研究仮設

収入が高いほど幸福度は高い

収入がある方が生活に
余裕ができ幸福度が高い

周りの環境も幸福度に影響する

家族、職場など身の回りの
環境が幸福度に影響する

研究方法

(1) 散布図による相関関係の可視化

GDPと幸福度の散布図

所得と幸福度の散布図

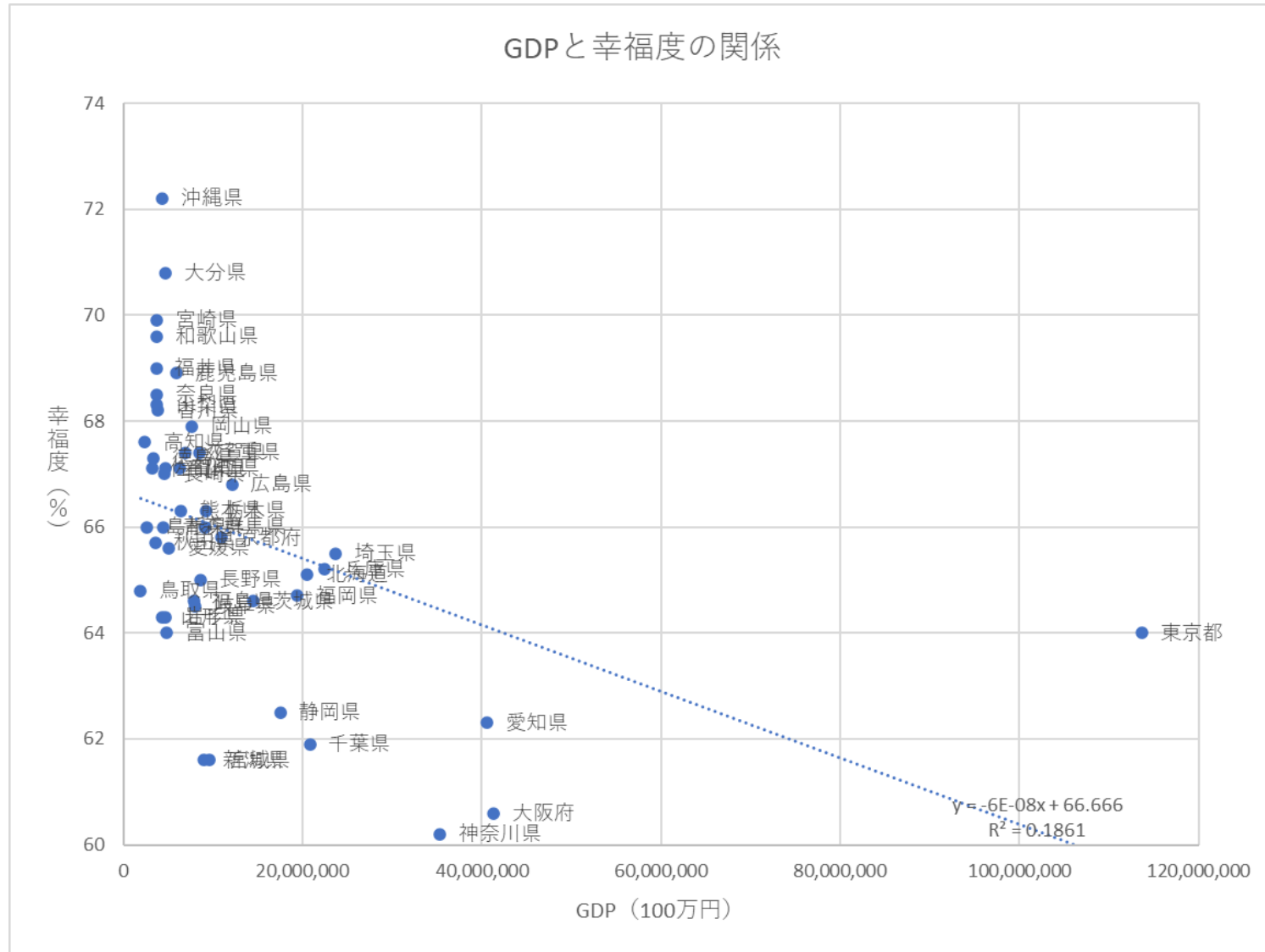
人口密度と幸福度の散布図

通勤時間と幸福度の散布図

(2) 決定係数 (R^2) の確認

回帰直線に付随する 決定係数 (R^2) を用いて比較

都道府県GDPと幸福度



都道府県GDPと幸福度

① GDP と幸福度には明確な正の相関は見られない

グラフ全体を見るとGDP が高い地域ほど幸福度が高いという単純な傾向は確認できない

近似直線の傾きがわずかにマイナスで、GDP が高いほど幸福度が低い傾向が示唆されている

•回帰式：

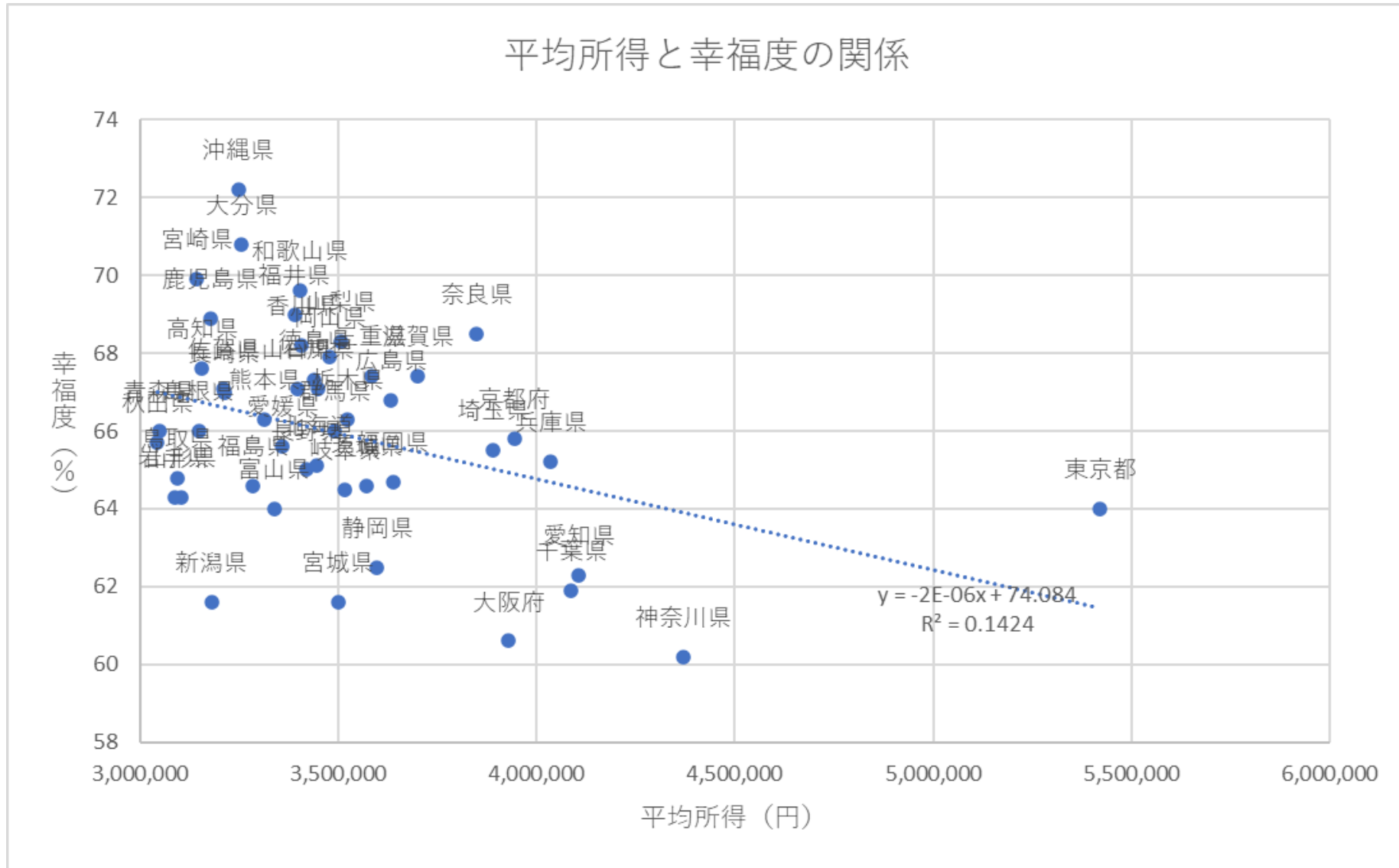
$$y = -6E-08x + 66.666 \text{ (わずかな負の傾き)}$$

•決定係数：

$$R^2 = 0.1861 \text{ (相関は弱い)}$$

➡ GDP は幸福度をほとんど説明できていない

平均所得と幸福度



平均所得と幸福度

① 平均所得と幸福度にも強い相関は見られない

近似直線（回帰直線）は右下がりの負の傾きとなっているが、その傾きはゆるやかで、決定係数（ $R^2 = 0.1424$ ）も小さく、相関は弱い

回帰式：

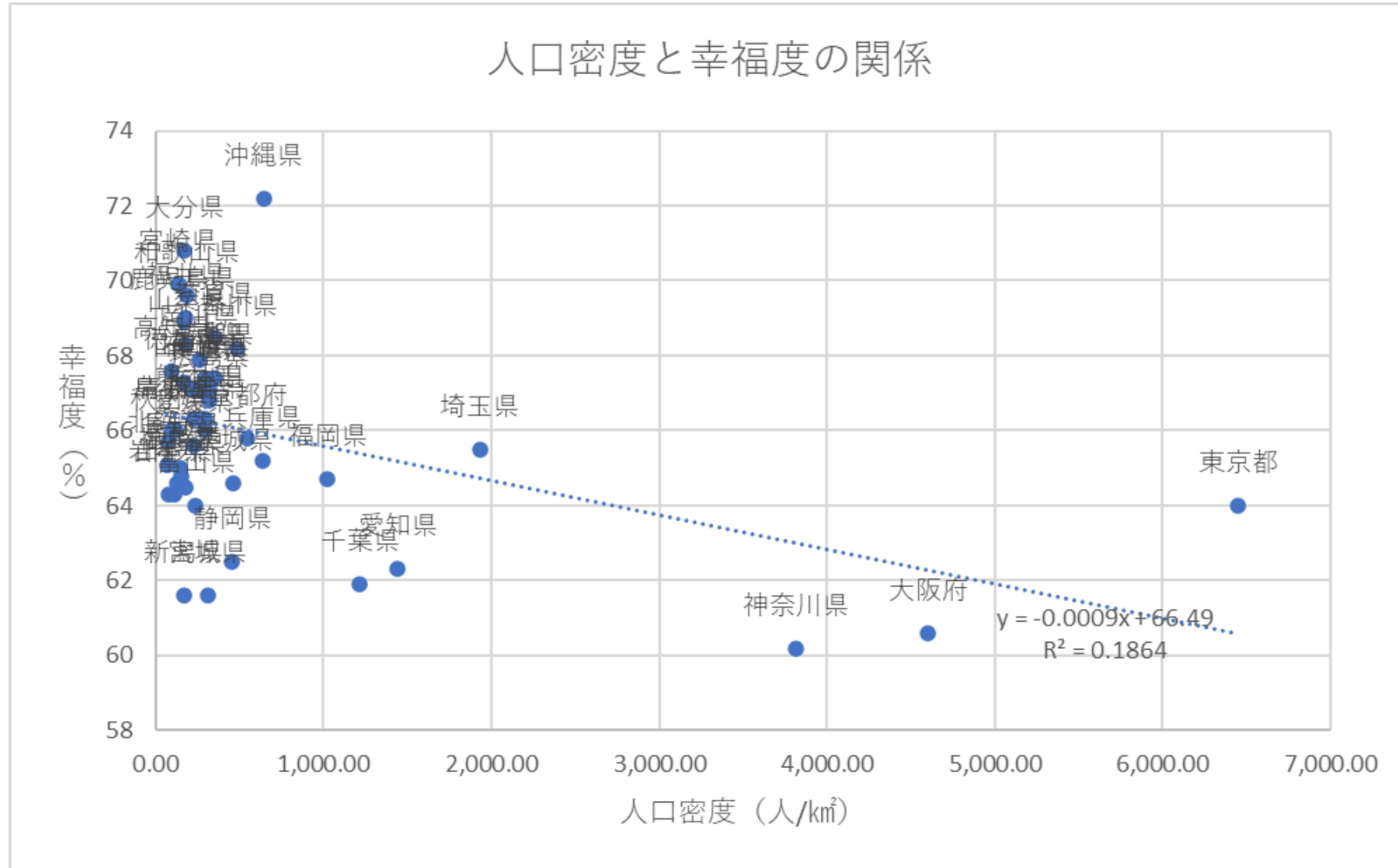
$$y = -2E-06x + 74.084$$

•決定係数：

$$R^2 = 0.1424$$

➡ 県民の平均所得だけでは幸福度の変動を十分に説明できない

人口密度と幸福度



人口密度と幸福度

① 人口密度と幸福度には「弱い負の相関」が見られる

グラフの回帰直線は右下がり、人口密度が高いほど幸福度が低い傾向がある

• 回帰式：

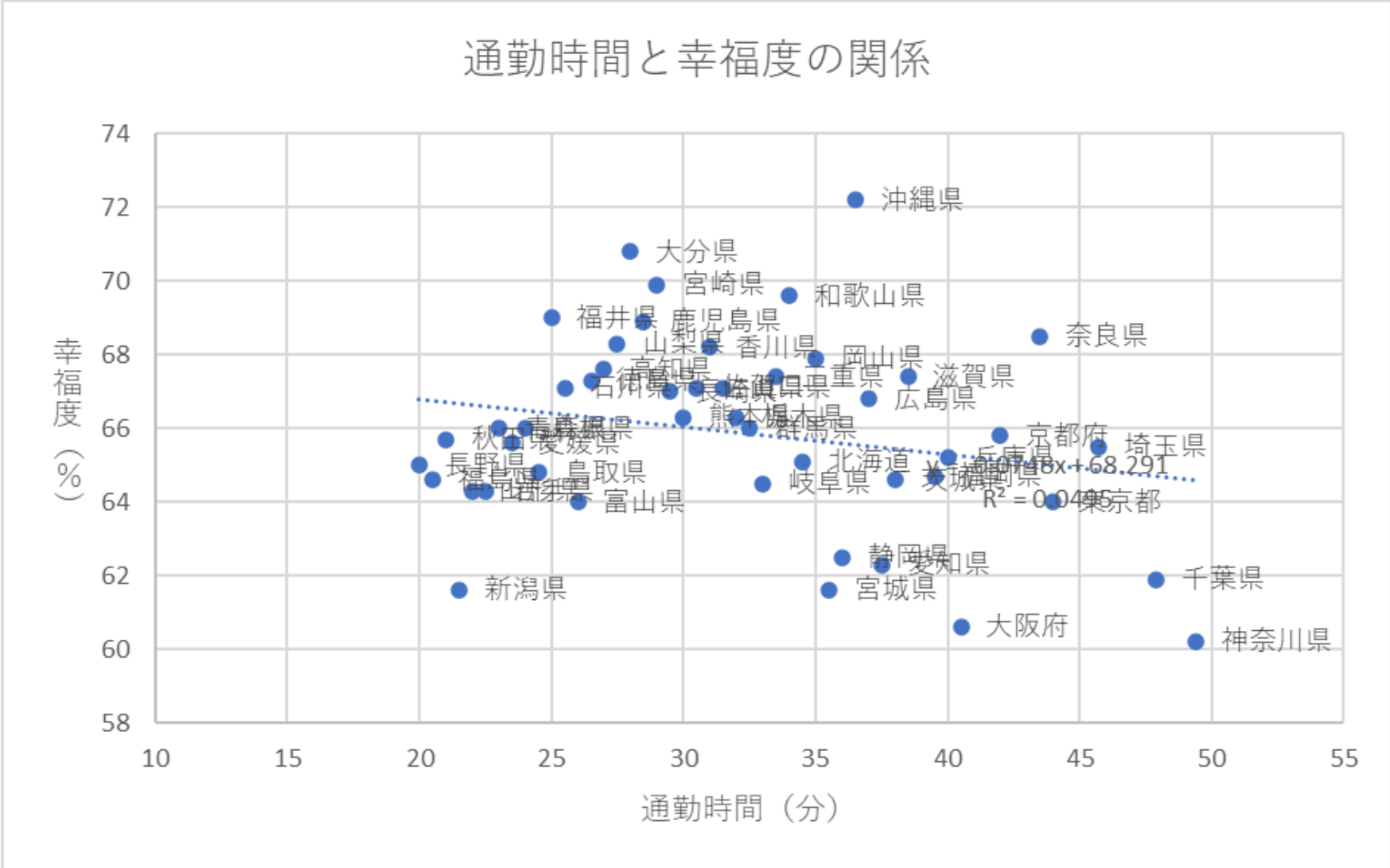
$$y = -0.0009x + 66.49$$

• 決定係数：

$$R^2 = 0.1864$$

➡ 弱い負の相関が見られ、人口密度の上昇が幸福度にある程度影響を与えている

通勤時間と幸福度



通勤時間と幸福度

① 全体として“弱い負の相関”が見られる

散布図は軽度の右下がり、通勤時間が長くなるほど幸福度がやや低い傾向がある

• 回帰式：

$$y = -0.04x + 68.291$$

• 決定係数：

$$R^2 = 0.041$$

➡ 相関は非常に弱い、通勤時間が長くなるほど幸福度は下がる

研究結果

1. GDP と幸福度：ほぼ無関係、むしろ弱い負の相関

経済規模が大きくても、
住民が幸せになるわけではない

2. 平均所得と幸福度：弱い負の相関

高所得県（東京・神奈川・大阪）は幸福度が低い
所得が高くても生活コストが高い県が多い

研究結果

3. 人口密度と幸福度：負の相関

人口密度が上がるほど幸福度は下がる

地方県（沖縄・大分・宮崎）は人口密度が低く幸福度が高い

都市部（東京・大阪・神奈川）で幸福度が低い

4. 通勤時間と幸福度：弱い負の相関

相関は非常に弱い

ただ地方では通勤時間が短くても幸福度が高いとは限らない

考察：幸福度に影響する要因とは？

- ・ **経済的に豊か＝幸福ではない**

GDPも所得もほとんど幸福度を説明できない。

- ・ **都市化が進むほど幸福度が下がる**

人口密度・長時間通勤・高い生活コスト・ストレスなど都市特性が共通の要因。

- ・ **地方・自然豊かな地域は幸福度が高い**

沖縄・大分・宮崎・和歌山などは共通して
物価が比較的低い
自然環境が豊か

おわり